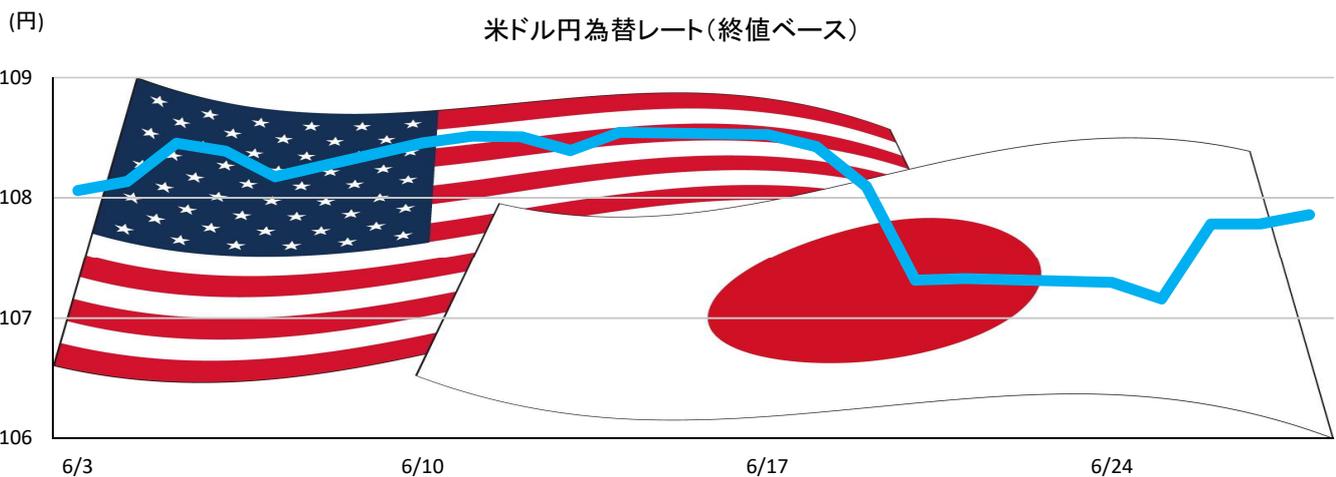


MARKET REVIEW

先月の振り返り: 6月のドル円相場は108円後半～106円後半で推移。月初は米中貿易問題や米利下げ観測、米雇用統計など、材料に事欠かなかつたものの、動意は薄かった。またホルムズ海峡でタンカーが攻撃されたが、マーケットへの影響があまり無く、ドル円は変動幅が1円に満たない膠着状態が続いた。月中のFOMCにおいて利下げ姿勢が示されたことで、マーケットはドル売り円買いで反応。さらにトランプ大統領のツイートをきっかけに中東をめぐる地政学リスクの高まりもあり、107円台を割り込んだ。ただ月末には米中貿易問題に関して、追加の制裁関税を当面発動しないことを受けてドル買戻しの動きとなり、107円後半まで持ち直した。



EXTRA VISION

今後の展開: 米中貿易問題が一時的に落ち着いたことや良好な米雇用統計の結果を受けて堅調に推移し始めたドル円だったが、パウエルFRB議長の議会証言で早期利下げの可能性が高まり、ドル安円高が進行。経済指標を引き続き注視するということが示されたことで、次回のFOMCまでの間は指標発表次第では乱高下する可能性もあり、特に月末までは、より気を付けておきたいところ。また、米中貿易問題は解決したわけではなく、大きな変動要因となるため、ポジションの取り方には注意を払っておきたい。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
7 / 25 (木)	20 : 45	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆
7 / 26 (金)	21 : 30	US	米GDP速報値	☆☆☆☆
7 / 30 (火)	** : **	JP	日銀金融政策決定会合	☆☆☆☆
8 / 1 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
8 / 2 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
8 / 9 (金)	8 : 50	JP	日GDP速報値	☆☆☆☆
8 / 15 (木)	21 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていることがありますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなされるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。